

## 4. 登別市

### (1) 当該自治体の抱える課題

登別市では、近年表面化しつつある孤独・孤立に関連する課題への取組を個々の分野において進めていた。

令和3年度、地域福祉計画策定時に「登別市福祉のまちづくり検討委員会」を設置して計画を策定し、同計画に掲げた目標の達成に向けた取組の進捗確認や評価等に関して意見を述べ、地域福祉の推進に資する協議を行う会議体「登別市地域福祉推進市民会議」を組織した。

#### ① 事業開始前の課題

登別市内においても、長引くコロナ禍をきっかけに孤独・孤立問題が顕在化・深刻化することが懸念されていた。そのような状況に対して、孤独・孤立に対する直接的な取組は行われていなかった。また、高齢者を中心に活発な見守り活動等は行われていたが、ヤングケアラー等の若年層への取組はさらに取り組んでいく余地があった。

#### ②事業開始当初の課題（自治体ヒアリング結果）

当該自治体の現状等を詳細に把握するため初回ヒアリングを行ったところ、次の現状、課題感及び実施希望を聴取できた。

- ア 高齢者を中心とした各部門の支援は存在するが、孤独、孤立に特化した切り口の支援は行っておらず、市として全体把握ができていない。
- イ 子育てやヤングケアラー等若年層への取組についてはまだまだ取り組む余地がある。
- ウ 重層的支援事業での取組をベースとして連携PFも並行して活用していきたい。
- エ 試行的事業の案については以下のとおり
  - a, 設立準備会の開催
  - b, アンケートによる実態把握
  - c, ヤングケアラー向けチラシの制作・配布
  - d. プラットフォーム本会の実施

### ①推進準備会の開催

- 「登別市孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を推進するための準備会の開催
- 令和5年1月30日開催

### ②アンケート調査の実施

- 令和3年度に国が実施した「人々のつながりに関する調査」を基本に市独自の項目を追加して実施。
- 対象者：16歳以上の市民
- 調査数：2,500人

### ③本会の開催

- 準備会に参加していただいた機関・団体等のほか、市が包括連携協定を締結している法人等にも幅広く声かけをして、プラットフォームの本会を開催（3月開催に向けて調整中）
- 本会では、アンケート結果を提示し、本市の傾向を情報共有。

### ④周知・啓発チラシの作成

- 昨今、問題視されている「ヤングケアラー」に関する周知・啓発チラシを作成・配布し、孤立している可能性等がある「ヤングケアラー」を必要な支援に繋げる。
- 小・中学校の児童・生徒にも配布し、相談先等の周知を図る。

(図表5-1 試行的事業の案)

## (2) 当該自治体の連携プラットフォームが目指すべき方向性

これまで登別市が有する課題観及び初回ヒアリングにおける聞き取りを行った結果、登別市において求められるプラットフォーム形成の方向性が以下のとおり整理された。

### ■登別市におけるプラットフォーム形成の方針

PFの形成目的	登別市における官・民・NPO等の連携の強化
PFの目指す状態	登別市における官・民・NPO等が情報共有等の形でスムーズに連携が行える状態
新設/既設	既存「登別市地域福祉推進市民会議」
主な構成団体案 (活動開始時点)	以下の分野の組織より18団体 ・登別市、道振興局、 児相、社協、包括支援センター、 NPO、老人クラブ、商工会議所、企業等

(図表5-2 プラットフォーム形成イメージ)

(3) 当該自治体が実施した試行的事業の内容

登別市が実施した試行的事業については以下のとおり。

NO	試行的事業の名称	時期	実施内容と期待効果
1	設立準備会の開催	1/30	・市内関係団体による情報共有・協議 ・情報共有の重要性、PFの存在意義の確認
2	アンケート調査による実態把握	12月～2月	・住民へのアンケート調査 ・市内の孤独・孤立の現状把握
3	ヤングケアラー向けチラシの制作・配布	2月～3月	・ヤングケアラーに特化したチラシを製作し、市内の小中学校に配布 ・ヤングケアラーに特化した啓発
4	プラットフォーム本会の実施	3/15	・市内関係団体による情報共有・協議 ・PFの今後の方向性の確認

(図表5-3 試行的事業一覧)

①No.1 設立準備会の開催

【準備会の概要】	
1月30日 月曜日	15:00～17:00 @登別市民会館
1500～1505	開会挨拶 (登別副市長 伊藤 嘉規)
1505～1555	孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム構築の背景 ～孤独・孤立全国トレンドと対策の最前線～ (特定非営利活動法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長 内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与 大西 連 様)
1605～1620	登別 孤独・孤立対策支援官民連携プラットフォーム事業 概要説明 (登別市保健福祉部 次長 平田雅樹)
1620～1625	アンケート調査説明 (株式会社 船井総合研究所 朽尾 圭亮)
1625～1655	プラットフォーム参加者 ご紹介 (各ご参加者様)
1655～1700	本日のまとめ (登別市保健福祉部 次長 平田雅樹)

(図表5-4 設立準備会プログラム)

本会に先駆けて、市内関係団体に呼びかけ、本事業の意義・概要について周知すると共に、様々な意見を収集するために準備会を開催した。市内の各地域、各テーマで活動する

団体へ広く呼び掛けることにより、通常の活動では接点のない団体も多く参加するように試みた。また、市長から意思を発信することにより、全市を上げた取り組みとして認知されるように努めた。参加者は下記の通りである。

No.	団体名等	役職
①	内閣官房 孤独孤立対策室	政策参与
②	登別市	市長
③	登別市保健福祉部	次長
④	登別市保健福祉部	次長
⑤	北海道胆振総合振興局 保健環境部 社会福祉課	課長
⑥	北海道室蘭児童相談所 地域支援課	地域支援課長
⑦	登別市社会福祉協議会	常務理事
⑧	登別市民生委員児童委員協議会	会長
⑨	登別市市民自治推進委員会 めくもり部会	部会長
⑩	登別市連合町内会	事務局長
⑪	登別市手をつなぐ育成会	会長
⑫	登別地区保護司会	副会長
⑬	登別市男女共同参画社会づくり推進会議	副委員長
⑭	登別市地域包括支援センター「けいあい」	センター長
⑮	登別市地域包括支援センター ゆのか	センター長
⑯	登別市地域包括支援センター あおい(愛桜)	主任介護支援専門員
⑰	登別市総合相談支援センター en	センター長
⑱	特定非営利活動法人 ゆめみ〜る	副理事長・事務局長

(図表 5 - 5 登別市 孤独・孤立対策支援官民連携プラットフォーム設立準備会 参加団体一覧)

・当日の様子





## ②No.2 アンケート調査による実態把握

### 【アンケートの概要】

#### アンケート. 市民向け Web アンケート (2023年2月実施)

【概要】 市内の孤独・孤立に係る現状を把握するために Web アンケートを実施

回収数 : 1093 (配布数 2,500)

設問数 : 28 問 (内閣官房の全国調査原票を参照)

(図表 5-6 アンケート実施内容)

登別における孤独・孤立の現状を把握するため、市民向けのアンケートを実施した。アンケートにおいては下記の通り設問を設け、孤独・孤立の実態の把握を行った。

- ・ 孤独を感じるか（直接質問・間接質問）
- ・ 孤独感と年齢
- ・ 孤独感と婚姻状況
- ・ 孤独感と同居人の有無
- ・ 孤独感と地域
- ・ 孤独を感じる前に経験した出来事
- ・ 心身の健康状態
- ・ 社会的交流、社会参加、社会的サポートの有無
- ・ 外出頻度
- ・ 相談相手の有無と孤独感
- ・ 相談相手の詳細

アンケートの結果としては、孤独を感じるかという質問に対しては、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した割合は全体の 2.6%となり、国の調査と比較してやや低くなった。（国調査 4.5%）

孤独を感じている層としては、20～30 代、同居人無し、相談相手無し等において、その割合が大きくなった。

また、孤独を感じる前に経験した出来事としては、「一人暮らし」「家族との死別」「心身の重大なトラブル(病気・怪我等)等が多く挙げられた。

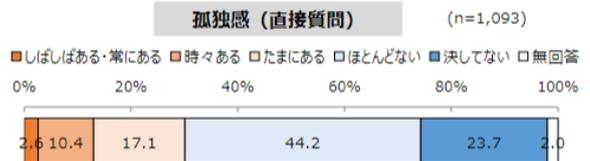
- ・ 孤独を感じるか（直接質問）

#### ①直接質問

直接的に孤独感を質問。直接質問の結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は**2.6%**、「時々ある」が**10.4%**、「たまにある」が**17.1%**であった。一方で孤独感が「ほとんどない」と回答した人は44.2%、「決してない」が23.7%であった。

問 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

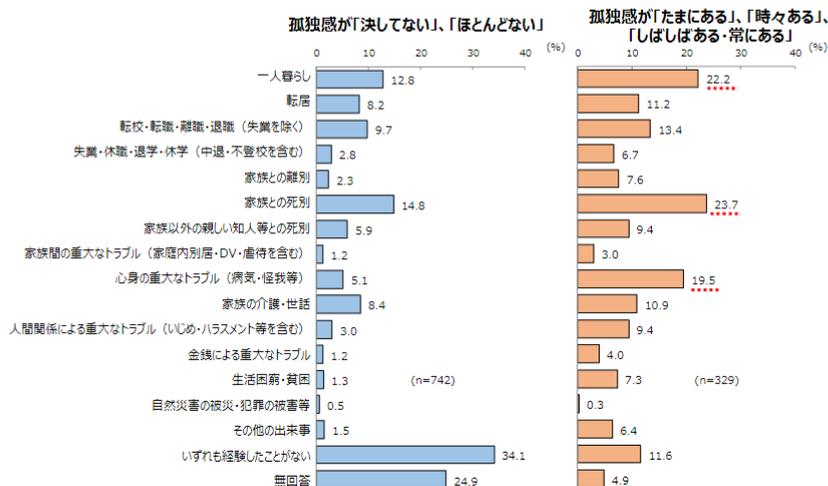
- |          |               |
|----------|---------------|
| 1 決してない  | 4 時々ある        |
| 2 ほとんどない | 5 しばしばある・常にある |
| 3 たまにある  |               |



- ・ 孤独を感じる前に経験した出来事

- ・ 孤独感が「たまにある」、「時々ある」、「しばしばある・常にある」と回答した人が、その状況に至る前に経験した出来事としては、「**いずれも経験したことがない**」、「**自然災害の被災・犯罪の被害等**」を除く、**全ての項目**で、「決してない」、「ほとんどない」と回答した人より上回っている。
- ・ 特に「**一人暮らし**」、「**家族との死別**」、「**心身の重大なトラブル(病気・怪我等)**」を選択した人が多く、「決してない」「ほとんどない」と回答した人との差も大きい。

#### 現在の孤独感に至る前に経験した出来事（複数回答）



なお、アンケートに当たっては、回収率を上げるために、郵送に加えて Web での回答フォームも準備した。

**「登別市 人々のつながりに関する基礎調査」への  
ご協力をお願い**

日頃から、市政の推進にご理解とご協力いただき、誠にありがとうございます。さて、本市では、社会全体のつながりの希薄化や新型コロナウイルス感染拡大の長期化による「孤独・孤立」が深刻な社会問題となっていることを受けて、政府の「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業」の実施に連携し、その取組団体に決定しました。

その一環としてこのたび、「登別市 人々のつながりに関する基礎調査」を行い、市民の皆様のご協力により、コミュニケーションの状況など、孤独・孤立に関する実態を把握して、今後の施策に活用させていただきますこととしました。

つきましては、お忙しいところ誠に勝手ですが、本調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査は（株）サーベイリサーチセンターにより実施します。

令和5年1月、  
登別市保健福祉部

---

**ご回答にあたってのお願い**

- 回答方法：【郵送】または【インターネット】のいずれかで回答できます。  
【郵送】次ページの「ご記入にあたってのお願い」をご覧ください。  
1 ページから回答し同封の返信用封筒にて期限までに、投函してください。  
【インターネット】別紙「オンライン回答のご案内」をご覧ください。
- 回答期限：郵送とインターネット共通で **令和5年2月3日（金）**
- 調査対象：16歳以上の登別市民の皆様から2,500名を抽出して実施します。
- 特記事項：回答内容はすべて統計的に処理するため、個人が特定されることはありません。

登別市保健福祉部社会福祉グループ  
電話：0143-85-1911

**登別市人々のつながりに関する基礎調査オンライン回答のご案内**

**回答用ページ URL 及びあなた様のログイン情報**

回答用ページ URL	https://en.surece.co.jp/connection2022	回答用ページ二次元コード	
ID	□		
パスワード	□		

※ID やパスワードは第三者に伝えないなど、取扱いには十分にご注意ください。  
※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はありません。

**回答方法**

パソコン、タブレット、スマートフォンからも回答することができます。オンラインでの回答は、下記のように行ってください。

- ①回答用ページへアクセス**  
上記URLから、回答用ページへアクセスしてください。  
スマートフォンからは、右上の二次元コードを読み取ってアクセスできます。
- ②回答フォームにログイン**  
回答用ページで「ID」と「パスワード」を入力し、「次へ」ボタンを押します。  
＜回答用ページトップ画面＞  

- ③回答を開始**  
表示される設問をよくお読みになって、当てはまる選択肢にチェックを入れてください。「その他」をお選びになった際は、押下に文字を入力してください。

**オンライン回答に関するご注意**

- 回答は、調査票（紙）かオンライン回答（Web）のいずれかになります。重複しての回答が無いようにご注意ください。また、調査の対象となった本人が回答してください。
- オンライン回答は、途中保存が可能です。中断される場合は、そのまま画面を閉じてください。最後に「次へ」ボタンを押したページまでの回答は保存されています。再開する場合は、回答用ページへ再度アクセスし、ログインしてください。
- 画面を閉じたままの状態は、画面内に設けられた「戻る」ボタンをご使用ください。回答中にブラウザの「戻る」ボタンを使用しないでください。
- 回答は、各ページ60秒以内に「次へ」ボタンを押してください。
- 本ウェブ調査システムはより安全にご利用いただくために下記環境を推奨しております。  
【Windows】 Chrome 最新版 / Firefox 最新版 / Microsoft Edge 最新版  
【MacOS】 Chrome 最新版 / Firefox 最新版 / Safari 最新版  
【Android】 標準ブラウザ (Chrome) 最新版  
【iOS】 標準ブラウザ (Safari) 最新版 / Chrome 最新版
- JavaScript及びCookieを有効にしてください。
- オンラインでの回答は1回限りです。回答を保存されるとその後の修正はできません。
- 有効な個人情報保護法に基づき、調査票をお送りする目的のみに使用します。本調査にご回答することで個人が特定されることはありません。

●オンラインの回答は、**令和5年2月3日（金）23時59分まで**です。

【お問い合わせ先】  
株式会社サーベイリサーチセンター北海道支所  
電話：●●●●●●●●（平日9：00～17：30）

郵便はがき

料金別納  
郵便

**【この調査に関するお問い合わせ先】**

登別市保健福祉部社会福祉グループ

住所：〒059-8701  
登別市中央町6丁目11番地  
電話：0143-85-1911

**「登別市 人々のつながりに関する基礎調査」  
ご協力をお願い**

日頃から市政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

先日、お送りさせていただきました「登別市 人々のつながりに関する基礎調査」にご協力いただき誠にありがとうございます。

調査結果は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めるための貴重な基礎資料として、活用させていただきます。

まだご回答をいただけていない方におかれましては、大変お手数をおかけいたしますが、同封の返信用封筒にて **2月3日（金）**までにご投函ください。

なお、このはがきはアンケートをお送りさせていただいたすべての皆様にお届けしておりますので、本状と行き違いで既にご回答いただきました場合には、何とぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

令和5年1月  
登別市保健福祉部  
社会福祉グループ

（図表5-7 左上：アンケート帳票、右上：Web 回答案内 下：お礼状（督促））

③No.3 ヤングケアラー向けチラシの制作・配布

若年層への新たな取組として、これまでに調査及び啓発が活発に行われていないヤングケアラーに係る課題認識の共有、さらに子どもへの啓発を行うためのチラシを作成し、市内の小・中学校をとおして全児童・生徒へ配布したほか、町内会回覧を活用して市民へ幅広く周知・啓発を行った。

**家事や家族のひとりで抱えているの？ サポート**

ひとりで頑張っている子どもがいます。

もしもあなたが家たちがそうだったら・・・

**ヤングケアラー相談窓口 心声を聞かせてください。**

**登別市 保健福祉部 子ども家庭グループ 子ども相談室**  
**☎0143-85-6677** (平日 午前7時～午後11時、午後1時～午後3時 ※毎月1回休室)  
 (土・日・祝日、夜間、12月29日～1月3日除く)

**ヤングケアラーとは**

本来、大人が担うような家事や家族の世帯・介護等により、学校に行けない、友だちを作れない、自分の精神がとれないなど、子どもらしい生活が送れない子どものことをいいます。

**ヤングケアラーが直面する問題点**

家族の子供い・手助けをするのは「ふつうのこと」と思ってもいいかもしれません。でも、**学校生活に影響が出たり、こころやからだに不調を感じたり**するほどの重い負担がかかっている場合は、**注意**が必要です。

**1 学習への影響**  
 勉強・集中・気力が落ちる、授業の理解が難しくなる

**2 友人関係への影響**  
 友人がドコモ・LINE・インスタグラムを取れる時間が少ないなど

**3 家族・関係者への影響**  
 自分であると思わぬことの影響を受けやすくなる、自分の持っているスキルや得意分野をアピールできないなど

**いつも頑張っている、あなたへ**

毎日、家族を支えるためにがんばってきたあなた。でも未来、家族の世帯は大人の仕事。子どもの時間は、未来へとつながっていく大切な時間です。自分の時間を少しづつ取り戻すために下の3つからはじめてみましょう。

**1 まず自分がヤングケアラーか振り返ってみよう**  
 在宅や自分の得意な分野がないと悩むことも多い。ヤングケアラーの可能性もあります。今一度を振り返ってみましょう。

**2 ひとりで抱え込まず誰かに相談しよう**  
 課題の世帯でサポートがなければ、ひとりでは解決しにくいです。まずは相談してみましょう。

**3 ためらわず同じ大人を頼ろう**  
 大人に頼って世帯を助けたい、どうサポートしてほしいかなど、必ず相談をこころから話しましょう。

**ヤングケアラー相談窓口 心声を聞かせてください。**

**ほっかいどう 親子のための相談 LINE**

北海道ヤングケアラー相談サポートセンター (ズベツケアラーズ)  
**☎0120-516-086** (月～金、9:45～17:30)  
**(Sメール専用) 080-9612-1247** (無料)  
 メール: hokkaido.young.carer2022@gmail.com (随時)  
 Twitter: @youngcarer2022 (随時)  
 Facebook: facebook.com/ebetsu.carers (随時)

**登別市保健福祉部 子ども家庭グループ 子ども相談室 ☎0143-85-6677**  
 登別市中央町 11 番地 3 階 (月～金、9:45～17:30 ※毎月1回休室) (土・日・祝日、夜間、12月29日～1月3日除く)

**いぶり・ひだか児童家庭支援センターしずく 子ども相談支援センター**  
**☎080-4866-7141** (24時間) **☎0120-3882-56** (24時間)

**児童相談所相談専用ダイヤル こころの電話相談**  
**☎0120-189-783** (24時間) **☎0570-064-556**  
 (休日の夜間、夜間～11時、12月29日～1月3日除く)

(図表5-8 配布したチラシ)

※合計 10,000 部を印刷し、登別市内の小・中学校、関係機関へ配布。

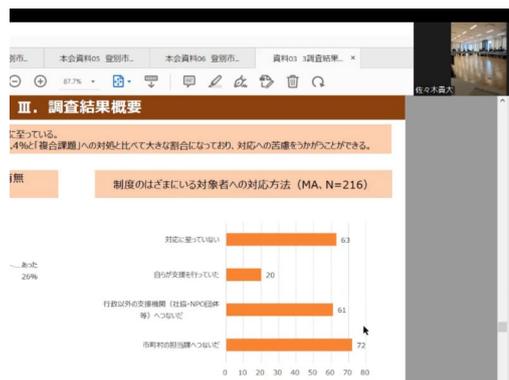
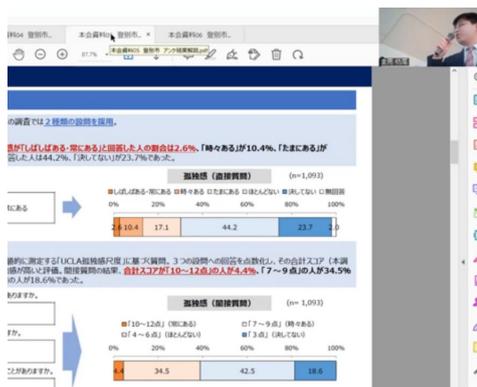
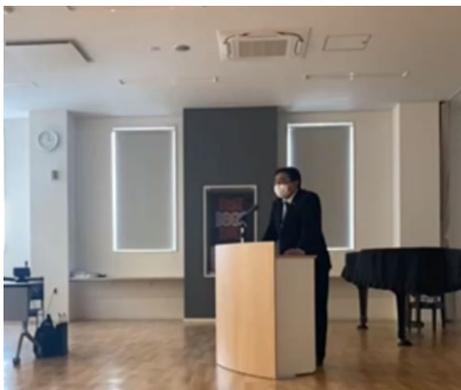
④No. 4 プラットフォーム本会の開催

【プラットフォーム本会の概要】		3月15日 火曜日 15:00～17:00
		@登別市観光交流センター（ヌプル）
15:00～15:05	開会	(登別市長 小笠原 春一)
15:05～15:20	地方版 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム解説	(内閣官房 孤独・孤立対策担当室 次長 榊原 毅)
15:20～15:35	登別市 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業 進捗報告	(登別市保健福祉部 次長 平田雅樹)
15:35～15:50	アンケート調査説明	(株式会社 船井総合研究所 朽尾 圭亮)
15:50～16:50	プラットフォーム参加者によるご協議	(各ご参加者様)
16:50	閉会	

(図表5-9 プラットフォーム本会プログラム)

準備会を踏まえて、プラットフォームの今後の方向性を検討・すり合わせるために、本会の開催を行った。今回は、準備会において参加した団体以外に、特に民間事業者へのよびかけを強化した。背景としては、孤独・孤立を含めた負担をできるかぎり軽減するとともに、広く孤独・孤立の認知を高めたいという市長の強い方針があった。

・当日の様子



#### (4) 当該自治体の今後のプラットフォーム組成の方向性

準備会並びに本会では委員から PF 構築に向けて積極的な意見が出されると共に、アンケートの結果からもより官民・団体同士の連携強化が必要となっていることが判明した。

本事業は終了となるものの、令和5年度以降も、重層的支援事業と並行する形で、引き続き PF についても庁内で対応することになっている。

その際、これまでは小笠原市長のリーダーシップを通じて、民間事業者等の巻き込みを行ってきたが、これから先は、より多くの民間事業者等を巻き込み、エンゲージメントを高めていくための方策を別途検討していく必要がある。

#### (5) 活動から得られた知見

登別市での孤独・孤立対策官民連携 PF の設置に向けた活動において得られた知見は以下の三つに集約される。

##### ① 首長によるリーダーシップの有効性

登別市での各試行的事業の展開が円滑に進み、特に PF 準備会、PF 本会において各招聘団体の参加率は高く、発言も積極的に行われていた要因として、登別市長である小笠原市長のリーダーシップが挙げられる。特に準備会、本会等において首長自らが新分野である「孤独・孤立対策の官民連携」を推進する意思表示を行うことで、多くの参加団体が市の本気度を確認でき、安心して PF の準備会、本会への意見を発言するに至っている。

今後の各地域の PF 設置においても、地域のトップである首長のスタンスが大きく影響することを鑑み、事業開始段階から積極的な関与が望まれると考えられる。

##### ② 民間組織への積極的なアプローチの効果と重要性

登別市では PF 準備会、PF 本会に民間の営利団体、特に企業を多く招待し、参加してもらうこととなった。背景としては市長の方針として、今後の孤独・孤立対策は福祉分野を専門とする組織だけではなく、地域にかかわる他分野の組織の知見が必要であるという考えがあった。この結果、連携協定を結ぶ民間企業等が参加する結果として、次年度の展開に弾みをつける形となった。

孤独・孤立対策官民連携 PF においては、同テーマに興味・関心の高い民間組織だけではなく、一見かわりがないように見えたとしても実務において貢献可能性が高い民間組織の存在・役割が重要になると考えられる。よって今後の各地域の PF 設置においては連携協定などをきっかけとして民間組織へ広くアプローチする必要があると考えられる。

##### ③ 関連する分野事業との連携実施（重層的支援体制整備事業 等）

登別市では、今後の連携 PF について次年度以降は重層的支援体制整備事業と連携して実施することで知見やノウハウを共有し、両事業を同時並行で進めることが模索される予定である。

登別市に限られず、多くの地域では進行する人口減少の影響によりヒト・モノ・カネ・情報といったリソースが限られている。本件同様の会議は数多く開催されるものの参加者の顔ぶれがいつも同じ、という意見も散見されるため、今後の各地域でのPF設置においても設置活動まえに関連する分野事業を整理し、できるかぎり連携させながら効率的に事業を実施することが負担軽減と事業の本来の効果の発揮につながると考えられる。